報 道 発 表

科学技術政策研究所

平成 21 年 12 月 25 日
科学技術政策研究所

科学技術への顕著な貢献　2009
（ナイスステップな研究者）

科学技術政策研究所（所長　和田智明）では、科学技術の振興・普及において顕著な貢献をされた 10 組 12 名の方々を「ナイスステップな研究者」として選定しました。

科学技術政策研究所では、2005 年より、科学技術への顕著な貢献をされた方々「ナイスステップな研究者」を選定しております。2009 年は、科学技術政策研究所の調査研究活動及び科学技術政策研究所の専門家ネットワーク（約 2,000 人）の意見を参考に、科学技術分野においてここ数年間になされた顕著な業績の中から、特に科学技術政策上注目すべき方々を選びました。これらの方々の活躍は科学技術に対する夢を国民に与えてくれるものでもあり、ここに広くお知らせいたします。

＜お問い合わせ＞
科学技術政策研究所　企画課
TEL：03-3581-2466
FAX：03-3503-3996
E-mail：office@nistep.go.jp
ホームページ：http://www.nistep.go.jp

【研究部門】

○田中（たなか）　啓二（けいじ）　東京都臨床医学総合研究所　所長代行
細胞内の不要タンパク質を分解するプロテアソームに関する研究で世界的に注目を集める

○天野（あまの）　浩（ひろし）　名城大学理工学部材料機能工学科　教授
青色 LED 用半導体の誕生から紫外発光半導体までの最先端の研究をリード

○小池（こいけ）　康博（やすひろ）　慶應義塾大学理工学部　教授
高速通信用プラスチック光ファイバーの研究および実用化

わたなべ　　　まこと
○渡邉　　信　筑波大学大学院生命環境科学研究科　教授

炭化水素産生緑藻類による次世代エネルギー資源開発の基盤技術を確立

はらだ　ひろし
○原田　広史　物質・材料研究機構　超耐熱材料センター長

ロールス・ロイス航空宇宙材料センター長

次世代超合金の開発および実用化推進

しばた　かずなり
○柴田　一成　京都大学大学院理学研究科附属天文台　台長

京都大学宇宙総合学研究ユニット　ユニット長

宇宙天気予報の基礎研究としての太陽活動現象の究明に貢献

【プロジェクト・産学連携・国際研究交流部門】

かねまつ　やすお
○兼松　泰男　大阪大学先端科学イノベーションセンター　教授

大学を核としたイノベーションコアの形成による研究成果の活用と若手人材の活躍の場の創出

えがみ　みめ
○江上　美芽　東京女子医科大学先端生命医科学研究所　客員教授

再生医療研究の治療実現に向けた「プロデューサー」活動の実践

○HTV プロジェクトチーム　宇宙航空研究開発機構(JAXA)有人宇宙環境利用ミッション本部

とらの　よしひこ
虎野　吉彦　プロジェクトマネージャー（「吉彦」の「ヨシ」は、「土」に「口」）

こやり　ゆきお
小鑓　幸雄　サブマネージャー

ささき　ひろし
佐々木　宏　ファンクションマネージャー

高度な安全性・信頼性を満足する宇宙ステーション補給機（HTV）の技術実証

【男女共同参画部門】

ありが　さなえ
○有賀　早苗　北海道大学　副理事・女性研究者支援室長

北海道大学大学院農学研究院/生命科学院環境分子生物科学研究室　教授

女性研究者活躍に向けた環境整備と女性研究者採用の促進

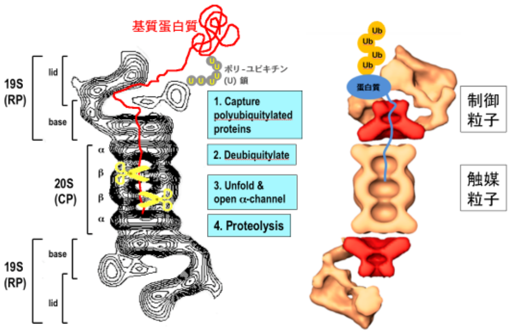
（参考資料）

○田中（たなか）　啓二（けいじ）（60 歳）　東京都臨床医学総合研究所　所長代行

細胞内の不要タンパク質を分解するプロテアソームに関する研究で世界的に注目を集める

細胞の中では多くのタンパク質が合成され、生命活動を維持していますが、一方で不要になったタンパク質や異常なタンパク質を分解し、除去する仕組みが存在します。いずれも生命活動においては最も基本的かつ普遍的なメカニズムと言えますが、田中啓二氏はこのタンパク質分解で中心的な役割を演ずる、プロテアソームという巨大な分子集合体を発見し、その構造や機能、構成分子や組み立ての機構等に関して、世界をリードする研究成果を継続して報告されています。近年ではプロテアソームの阻害剤が抗がん剤として注目を集めており、疾患の治療薬のターゲットとしても期待が持たれていますが、田中氏の業績はこのような動きに対しても重要な知見を提供しています。

プロテアソームの構造と機能



＜個別取材などのお問合せ先＞

田中（たなか）　啓二（けいじ）

東京都医学研究機構　東京都臨床医学総合研究所

TEL：03-5316-3337

FAX：03-5316-3198

E-mail：tanaka-kj@igakuken.or.jp

経歴

生年月日　1949 年 4 月 10 日（60 歳）

略　　歴

1976 年　徳島大学大学院医学研究科博士課程中退
1976 年　徳島大学酵素研究施設（昭和 62 年酵素科学研究センターに改組）・助手
1981 年　米国ハーバード大学医学部生理学部門（A.L.Goldberg 教授）に留学
1995 年　徳島大学酵素科学研究センター・助教授
1996 年　東京都臨床医学総合研究所・化学療法部門・部長
1999 年　東京都臨床医学総合研究所・分子腫瘍学研究部門（改組）部長
2002 年　東京都臨床医学総合研究所・副所長（分子腫瘍学研究部門 部長事務取扱）
2006 年　東京都臨床医学総合研究所・所長代行（先端研究センター・センター長兼任）

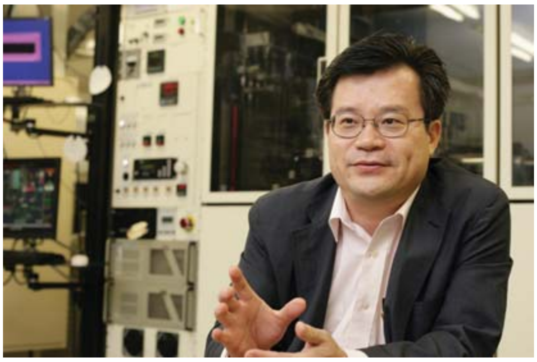
主な受賞歴

日本生化学会奨励賞（1988 年）
内藤記念科学振興賞（2003 年）
上原賞（2004 年）
朝日賞（2004 年）
東京スピリット賞（2005 年）
東レ科学技術賞（2007 年）
武田医学賞（2009 年）

○天野　　浩（49歳）　名城大学理工学部材料機能工学科　教授

青色LED用半導体の誕生から紫外発光半導体までの最先端の研究をリード

天野教授は、まだ青色LEDが夢といわれていた1980年代に、名古屋大学の指導教官であった赤﨑勇教授（現　名城大学特任教授）と低温バッファ層を利用した高品質の青色LED用半導体結晶を成長する方法を開発し、その後マグネシウムをドープした結晶を後処理でp型化するという画期的な技術を開発しました。これらの方法を用いて青色LEDが実現され、その後、研究・開発は、青色LEDの実用化と相俟って日本から世界へと急速に広がり、大きな学術領域へと発展しました。また、産業分野でも省エネルギーの核になる技術と期待されています。青色LED用半導体を誕生させた天野教授は、現在はさらに波長の短い紫外線発光素子を含めて、基礎から応用まで幅広く世界の研究をリードしています。



＜個別取材などのお問合せ先＞
天野　　浩
名城大学理工学部材料機能工学科
TEL：052-838-2293（ダイヤルイン）
FAX：052-832-1298
E-mail： amano@ccmfs.meijo-u.ac.jp

経歴

生年月日　1960 年 9 月 11 日（49 歳）

略　　歴

1983 年　名古屋大学工学部電子工学科卒業
1988 年　名古屋大学大学院博士課程終了
1988 年　名古屋大学助手
1989 年　名古屋大学、工学博士学位取得
1992 年　名城大学理工学部講師
1998 年　名城大学助教授
2002 年　名城大学教授

主な受賞歴

電気学会論文発表賞（1991 年）
オプトエレクトロニクス会議特別賞（1994 年）
米国 IEEE/LEOS エンジニアリングアチーブメント賞（1996 年）
応用物理学会賞Ｃ（会誌賞）（1998 年）
英国ランク賞（1998 年）
丸文学術賞（2001 年）
武田賞（2002 年）
SSDM Award（2003 年）
日本結晶成長学会論文賞（2008 年）
応用物理学会フェロー(2009 年)

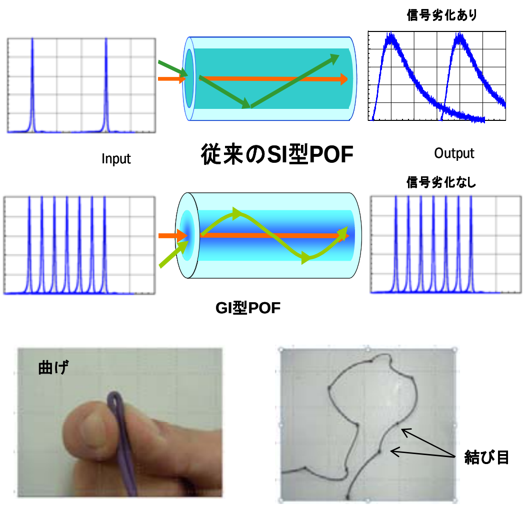
○小池　康博（55 歳）　慶応義塾大学理工学部　教授

高速通信用プラスチック光ファイバーの研究および実用化

光ファイバーは、現在の情報通信社会を築く上で極めて重要な役割を果たしています。今年度のノーベル賞の対象となったグラスファイバーは、大陸間などのインターネットやオフィス街、住宅街などの幹線に適しています。

小池教授が世界に先駆け発明、提案したのは、低損失・高速プラスチック光ファイバーです。従来より 200 倍以上の高速伝送を可能としました。これは、プラスチック光ファイバーが高速通信に使用可能であることを実証した世界初の報告となりました。プラスチックは、曲げに強く、安全で、ビル内、家庭内のような狭い場所への配線に大変適しています。現在、旭硝子株式会社と共同開発を進め、伝送速度が 40 ギガビットを越える全フッ素化プラスチック光ファイバーの試作に成功しており、従来にはない、臨場感溢れる Face-to-Face コミュニケーションへ向けての研究開発が精力的に行われています。

世界最速プラスチック光ファイバーの開発



小池教授はノートパソコンに搭載されている高輝度光散乱導光ポリマー、ゼロ複屈折ポリマーの発明者としても、世界的に高い評価を受けています。

＜個別取材などのお問合せ先＞
小池　康博
慶応義塾大学理工学部
TEL：044-580-1596
FAX：044-580-1433
E-mail：koike@appi.keio.ac.jp

経歴

生年月日　1954 年 4 月 7 日（55 歳）

略　　歴

1982 年　慶応義塾大学大学院工学研究科博士課程修了
1989～90 年　米国ベル研究所　研究員
1992 年　慶応義塾大学　理工学部助教授
1994 年～プラスチック光ファイバーコンソーシアム会長
1997 年　慶応義塾大学　理工学部教授
2000 年～現在　旧　科学技術振興事業団　戦略的創造研究推進事業 ERATO 小池フォトニクスポリマープロジェクトを経て、（独）科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業発展研究 ERATO-SORST「小池フォトニクスポリマープロジェクト」へ継続
2003 年～2004 年 3 月東北大学客員教授
2007 年～Honorary Doctorate of Eindhoven University of Technology
2009 年～Affiliate Professor, University of Washington

主な受賞歴

光科学技術研究振興財団賞（1992 年）
SPE 国際賞（Fred O. Conley 賞）（1994 年）
日経 BP 技術賞（1995 年）
光産業技術振興協会櫻井健二郎記念賞（1996 年）
繊維学会賞（2000 年）
第 42 回藤原賞（2001 年）
2002 年度高分子学会賞（2003 年）
紫綬褒章（2006 年）
その他多数

わたなべ　まこと
○渡邉　信（61 歳）　筑波大学大学院生命環境科学研究科　教授

炭化水素産生緑藻類による次世代エネルギー資源開発の基盤技術を確立

微細藻類は陸上植物と同様に光合成を行い、オイルを産生する種を数多く含んでおり、そのオイル生産効率は油脂植物と比べて非常に高いことが知られています。渡邉教授は、高質の石油系オイルである炭化水素を産生する緑藻類ボトリオコッカスについて炭化水素の産生量と増殖に優れた高アルカリ性培養株を開発し、最大の難点であった弱光下でも最大の増殖とオイル生産をおこなう条件を明らかにしました。また、全生産プロセスのエネルギー収支と経済性評価をおこない、ボトリオコッカスは将来の石油代替資源として極めて有望であることを明らかにしました。これらの成果は、学術分野のみならず社会的にも高い評価をうけ、欧米にやや遅れをとっていた日本の研究レベルを向上させ、2020 年までに温室効果ガス 25%削減という目標の達成に大きく貢献していくものです。

ボトリオコッカス（左上：矢印がオイル）、その屋内培養（右上下）と屋外培養（左下）

経歴

生年月日　1948 年 3 月 5 日（61 歳）

略　　歴

1971 年　東北大学理学部生物学科　卒業
1977 年　北海道大学大学院理学研究科博士課程修了・理学博士
1978 年　富山大学薬学部助手
1978 年　国立公害研究所水質土壌環境部研究員
1983 年　同　主任研究員
1989 年　同　主任研究官（地球規模海洋汚染担当）
1990 年　国立環境研究所生物圏環境部環境微生物研究室長
1997 年　国立環境研究所生物圏環境部長
2001 年　内閣府総合科学技術会議参事官併任（環境・エネルギー担当）
2001 年　独立行政法人国立環境研究所生物圏環境研究領域長
2005 年　独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター特任フェロー併任
2006 年　筑波大学大学院生命環境科学研究科教授
2007 年　独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員併任

主な受賞歴

国際藻類学会パーペンフス賞（1991 年）
ICCC-10 ベストポスター賞（2004 年）
APPF ベストポスター賞（2005 年）
日本微生物資源学会学会賞（2007 年）
米国苔・地衣学会ツッカーマン賞（2007 年）

＜個別取材などのお問合せ先＞
安達（あだち）　勝（まさる）
筑波大学研究推進部研究企画課
TEL：029-853-2921
FAX：029-853-6011
E-mail：adachi.masaru.ge@un.tsukuba.ac.jp

はらだ　ひろし
○原田　広史（58歳）　物質・材料研究機構　超耐熱材料センター長
ロールス・ロイス航空宇宙材料センター長

次世代超合金の開発および実用化推進

原田氏は旧金属材料技術研究所および物質・材料研究機構で超耐熱材料の開発に長年携わり、1,100℃で使用できる第5世代Ni基単結晶超合金の開発に世界で初めて成功するなど、多くの重要な業績をあげられています。また、三菱重工業株式会社と協力して、開発超合金をタービン翼に用いた天然ガス複合発電ガスタービンの実用化を推進しています。ロールス・ロイス社との共同研究では、開発超合金を用いたジェットエンジンが2～3年以内に新型旅客機に搭載される計画になっています。

開発超合金を発電ガスタービンやジェットエンジンに用いることによって、それらの作動温度を向上させて発電効率や推進効率を向上させることができます。そうすることで、燃料使用量の低減が可能になり、ＣＯ２排出削減に大きく貢献すると期待されています。

手にしているのは、開発合金を用いて鋳造した複合発電用単結晶タービン動翼

＜個別取材などのお問合せ先＞
はらだ　ひろし
原田　広史
物質・材料研究機構　超耐熱材料センター
TEL：029-859-2503
FAX：029-859-2501
E-mail：harada.hiroshi@nims.go.jp

経歴

生年月日　1951 年 1 月 24 日（58 歳）

略　　歴

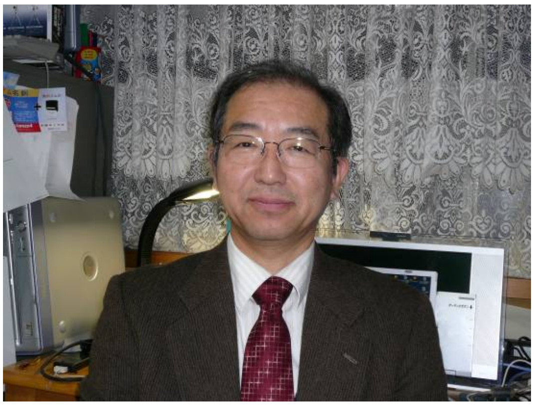
1975 年　早稲田大学大学院理工学研究科修士課程金属工学専攻修了
1975 年　金属材料技術研究所入所
1983 年　同　エネルギー機器材料研究グループ主任研究官
1989 年　工学博士（早稲田大学論文博士）
1992 年　金属材料技術研究所材料設計研究部第 3 研究室長
1999 年　同　特別研究官
2001 年　物質・材料研究機構 材料研究所構造材料研究センター
　　　　　耐熱材料研究グループ主幹研究員
2002 年　同　材料研究所超耐熱材料グループディレクター
2006 年より現職
この間、英国ケンブリッジ大学、材料及び金属学科滞在約 3 年（客員研究員）

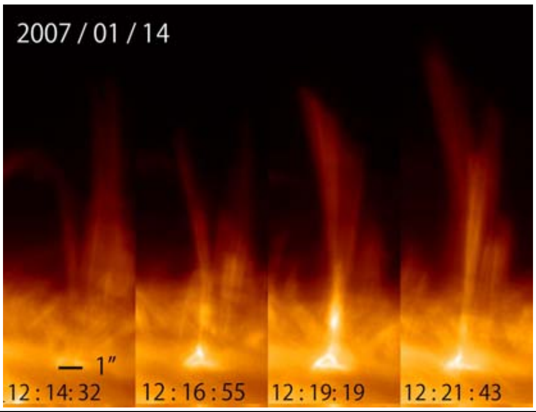
主な受賞歴

日本鉄鋼協会 俵論文賞（1980 年）
市村賞功績賞学術の部（1989 年）
科学技術庁長官業績表彰（1995 年）
英国材料学会第 3 回パーソンズ記念ガスタービン国際会議最優秀論文賞（1995 年）
日本金属学会 功績賞（1996 年）
岩谷直治記念賞（2001 年）
文部科学大臣賞研究功績者（2001 年）
CBMM 社及び英国材料学会チャールズ・ハッチェットメダル（2005 年）
日本金属学会 谷川・ハリス賞（2009 年）
谷川熱技術振興基金 粉生熱技術振興賞（2009 年）

しばた　かずなり
〇柴田　一成（55歳）　京都大学大学院理学研究科附属天文台　台長、教授
京都大学宇宙総合学研究ユニット　ユニット長

宇宙天気予報の基礎研究としての太陽活動現象の究明に貢献





太陽で爆発（フレア）が発生すると、地球周辺はプラズマの激しい嵐に見舞われ、電波障害、送電網の故障、人工衛星の故障、宇宙飛行士の被曝といった被害が発生します。太陽活動に伴う地球周辺環境の変化を予測する宇宙天気予報は、この様な被害の防止のために重要です。柴田教授は、内外の宇宙天気予報の研究に於いて主導的役割を果たしています。

太陽観測衛星「ひので」のデータから、磁気リコネクションという物理過程で発生する小さな爆発（ナノフレア）やジェットが、光球とコロナとの間に在る彩層に普遍的に存在することを解明すると共に、ユビキタス・リコネクションという概念を提唱し、コロナが百万度に加熱されている要因と成り得ることを示しました。

アネモネ型と呼ばれるコロナ内の活動領域でフレアが発生すると、超高速のプラズマが噴出し、地球に大きな磁気嵐を発生させることも発見しました。

＜個別取材などのお問合せ先＞
しばた　かずなり
柴田　一成
京都大学大学院理学研究科附属天文台
TEL：075-581-1235
FAX：075-593-9617
携帯：090-7092-6126
E-mail：shibata@kwasan.kyoto-u.ac.jp

経歴

生年月日　1954 年 12 月 24 日（55 歳）

略　　歴

1977 年　京都大学理学部卒業
1981 年　京都大学大学院理学研究科博士後期課程宇宙物理学専攻中退
1981 年　愛知教育大学教育学部・助手
1983 年　京都大学理学博士（論文博士）
1986 年　愛知教育大学教育学部・助教授
1987 年から 1 年間、米国テキサス大学核融合研究所（IFS)客員研究員
1991 年　国立天文台太陽物理学研究系・助教授
1994 年　東京大学大学院理学系研究科・助教授（併任－1999 年まで）
1999 年 京都大学大学院理学研究科・附属天文台・教授
2004 年 京都大学大学院理学研究科・附属天文台長（併任）
2009 年　京都大学宇宙総合学研究ユニット長（兼任）
現在に至る

主な受賞歴

日本天文学会　林忠四郎賞(2001 年)

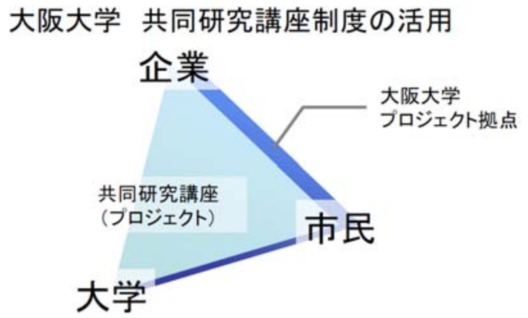
○兼松（かねまつ）　泰男（やすお）（51歳）　大阪大学先端科学イノベーションセンター　教授

大学を核としたイノベーションコアの形成による研究成果の活用と若手人材の活躍の場の創出

兼松教授は、大学を拠点としたイノベーションコアを形成することを目指して、大阪大学を中心に、学内の産学連携に積極的な研究者と広く連携し、学部横断的な産学協働の体制づくりに非常に早い時期から取り組んでいます。

最近では、より実践的な産学共同研究体の枠組みとして他大学に先駆けて設計した共同研究講座制度を活用し、また、その萌芽となる研究開発プロジェクトを複数立ち上げています。これら共同研究部門やプロジェクトは、産業化を目指した共同研究だけでなく、環境浄化や地域社会貢献へと発展しており、研究成果の活用や若手人材の活躍の場の創出につながっています。

このような先駆的な活動は、他の多くの大学での産学連携の取組に影響を与え続け、一つの先導的モデルとされています。



猪名川・藻川プロジェクト

＜個別取材などのお問合せ先＞
兼松（かねまつ）　泰男（やすお）
大阪大学先端科学イノベーションセンター
TEL：06-6879-7755
FAX：06-6879-7878
E-mail：kanematu@casi.osaka-u.ac.jp

経歴

生年月日　1958 年 12 月 21 日（51 歳）

略　　歴

1981 年　信州大学理学部卒業
1985 年　大阪市立大学大学院工学研究科修士課程修了
1989 年　大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了
1989 年　日本学術振興会特別研究員
1990 年　大阪大学助手　理学研究科
2000 年　大阪大学助教授　ベンチャービジネスラボラトリー
2004 年　大阪大学教授　先端科学イノベーションセンター
　　　　　大阪大学知的財産本部知的財産推進本部長
2008 年　大阪大学産学連携推進本部イノベーション創出部部長

○江上（えがみ）　美芽（みめ）（52 歳）　東京女子医科大学先端生命医科学研究所　客員教授

再生医療研究の治療実現に向けた「プロデューサー」活動の実践

再生医療の研究活動を実際の治療として実現し、更に新産業の創出に繋げるには、従来の「コーディネーター」的支援では部分的な成果しか望めません。江上教授は、研究者の立場を理解し実用化までの過程に存在する諸問題を解決できる「プロデューサー」人材こそが必要であると提唱しました。江上教授は具体的な実践として、東京女子医科大学 岡野光夫教授らが中心となって展開する「細胞シート工学」再生医療研究において、１）研究信条 Passion for Innovation and Duty for Patients of Tomorrow を掲げて産官学の融合を図り、２）同大先端生命医科学センター(TWIns)内に医師・研究者・企業・薬事専門家などから成る再生医療イノベーション・コミュニティーを組織化し、産学連携の旗振り役を担うと共に、国際的な組織である薬事専門家協会（RAPS）日本代表として活躍されました。また、科学技術振興調整費「先端融合イノベーション創出拠点の形成」プログラムやスーパー特区活動を通じて、３）細胞シート再生医療の標準化や資格化に向けた CSTEC(Cell Sheet Tissue Engineering Center 及び Cell Sheet Technology)を設定し、４）国際的な講演や産業界への啓発・広報活動を行い、５）国際共同研究及び臨床連携を促進することで、再生医療が治療として可能であること、また産業としても十分成立することを広く国内外に広めました。

経歴

生年月日　1957年9月14日（52歳）

略　　歴

1981年　一橋大学卒業（国際経済・開発経済専攻）
1981年　三菱銀行(総合職)入行
1985年～1996年　シティバンク、カナダコマース銀行等の国際金融部門において国際金融工学部門ディレクター・資本市場部長職
1996年　ウェルタイム・コーポレーション（代表取締役）を設立し、製薬関連企業の国際事業提携及びM&Aアドバイザリー
1998年～2005年10月　ABN AMRO銀行投資銀行本部 医薬・化学担当部長
その後、同銀行法人金融本部 ヘルスケア部長
ウェルタイム・コーポレーション株式会社代表取締役として、革新的バイオベンチャーの事業開発及び国際連携支援
東京女子医科大学バイオ・メディカルカリキュラム第36期履修同大学先端生命医科学研究所 非常勤講師
東北大学 先進医工学研究機構ストラテジー・アドバイザー
2006年　東京女子医科大学先端生命医科学研究所 客員教授（常勤）
科学技術振興調整費イノベーション創出拠点委託事業「再生医療の本格化に向けた最先端技術融合拠点」コーディネーター
2008年　スーパー特区「細胞シート再生医療の実現プロジェクト」参加
東京女子医科大学先端生命医科学研究所のチーフ・メディカルイノベーションオフィサー及び、国際産学連携・知財戦略コーディネーターとして現在に至る。
専門：先端医療政策・イノベーションマネジメント、医療経済

現在兼職：東北大学　未来医工学治療開発センター　客員教授（非常勤）
RAPS（国際薬事専門家協会）本部理事及びRAPSジャパン代表
日本医薬ライセンス協会　理事

＜個別取材などのお問合せ先＞
江上（えがみ）　美芽（みめ）
（アシスタント　飯山かおり）
東京女子医科大学　先端生命医科学研究所
TEL：03-5367-9945（内線6213）
FAX：03-3359-6046
E-mail：megami@abmes.twmu.ac.jp

○HTV プロジェクトチーム　宇宙航空研究開発機構(JAXA)有人宇宙環境利用ミッション本部

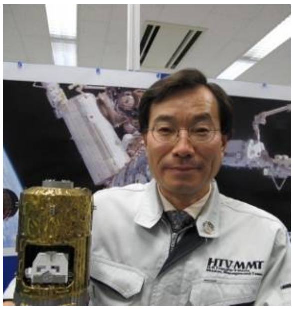
とらの　よしひこ
虎野　吉彦　プロジェクトマネージャー（「吉彦」の「ヨシ」は、「土」に「口」）

こやり　ゆきお
小鎚　幸雄　サブマネージャー

ささき　ひろし
佐々木　宏　ファンクションマネージャー

高度な安全性・信頼性を満足する宇宙ステーション補給機（HTV）の技術実証

虎野プロジェクトマネージャー



小鎚サブマネージャー

佐々木ファンクションマネージャー

宇宙ステーション補給機(HTV)は、国際宇宙ステーション（ISS）へ水、食糧、衣料や実験装置及びメンテナンス機器などの補給物資を運ぶため日本が開発した大型無人宇宙船です。

技術実証を目的とした初号機は 2009 年 9 月 11 日深夜 2 時に、種子島宇宙センターから、新たに開発された我が国最大のロケット、H-IIB によって打ち上げられ、9 月 18 日、計画通りに ISS とのドッキングに成功しました。ISS は、10 月 31 日の HTV の離脱までに、地球観測用の 2 つの大型船外実験装置を日本モジュール（きぼう）の船外実験プラットフォームにロボットアームで取り付けたり、船内用物資を ISS に運び込むとともに、ISS で発生した不要廃棄物を HTV に収納しました。離脱後は、徐々に高度を下げる軌道制御を実施し、11 月 2 日早朝に、ニュージーランド東方の大気圏に安全に再突入し、ミッションを完了しました。

HTV は、有人宇宙船と同等の極めて高度な安全性・信頼性が要求されており、今回のミッションにより、有人宇宙ステーションにランデブー・ドッキングする技術、その他の有人対応技術およびその自在な輸送能力を実証しました。また、米国スペースシャトルの退役後は船内、船外ともに大型物資を運べる唯一の宇宙船となり、各国の注目と期待を集めています。

今回の成功により、今後の宇宙活動の展開に必要な軌道間輸送機や有人宇宙船に不可欠な技術を習得したことになり、有人宇宙環境利用の更なる促進や将来の日本独自の有人宇宙開発活動に道を拓く大きな一歩を記しました。

虎野　吉彦　（「吉彦」の「ヨシ」は、「土」に「口」）

生年月日　1951 年 9 月 27 日（58 歳）

略　　歴

1974 年　大阪府立大学（工学部　機械工学科）卒業

1974 年　宇宙開発事業団（現：宇宙航空研究開発機構）入社

1974 年　主にロケットの組立整備・打上げを担当

1976 年～1983 年　打上管制部及び種子島宇宙センターに所属し、N-I ロケット及びN-II ロケット（合計 9 機）の打上げ総指揮者（LCDR）

1985 年　H-I ロケットの開発、プロジェクト管理を担当

1992 年　種子島宇宙センター機械課長（ロケット・衛星担当主任開発部員）

1996 年　H-IIA ロケット打上げ施設設備の開発とりまとめ主任開発部員

2000 年　小型ロケットプロジェクトマネージャー

2004 年　H-IIA ロケットの Return to Flight(RTF)のため、H-IIA プロジェクトサブマネージャー

2005 年　RTF 打上げ成功後より HTV プロジェクトマネージャー（現職）

＜個別取材などのお問合せ先＞

虎野（とらの）　吉彦（よしひこ）

HTV プロジェクトチーム

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

有人宇宙環境利用ミッション本部

TEL：050-3362-4124

FAX：029-868-3950

E-mail：torano.yoshihiko@jaxa.jp

小鑓　幸雄

生年月日　1952 年 11 月 17 日（57 歳）

略　　歴

1975 年　東京大学工学部航空学科卒業
1980 年　東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程修了（工博）
　同年　埼玉大学非常勤講師
1981 年　宇宙開発事業団入社
　　　　主に液体酸素／液体水素ロケットエンジンの開発に従事
1985 年　NASA エイムス研究所研究員
1993 年　宇宙開発事業団角田ロケット開発センター試験設備室長
1994 年　（同）宇宙ステーショングループ主任開発部員
2003 年　(財)宇宙環境利用推進センター宇宙実験推進部長
　同年　宇宙開発事業団セントリフュージプロジェクトチームサブマネージャー
2005 年　宇宙航空研究開発機構 HTV プロジェクトチームサブマネージャー

＜個別取材などのお問合せ先＞
小鑓（こやり）　幸雄（ゆきお）
HTV プロジェクトチーム
宇宙航空研究開発機構(JAXA)
有人宇宙環境利用ミッション本部
TEL：050-3362-5805
FAX：029-868-3950
E-mail：koyari.yukio@jaxa.jp

佐々木　宏

生年月日　1962 年 11 月 12 日（47 歳）

略　　歴

1987 年　東京大学大学院工学系研究科航空学専攻修士課程修了

1987 年　宇宙開発事業団入社

　　　　主に HOPE の研究、LE-7 エンジンの開発に従事

2002 年　宇宙開発事業団 HTV プロジェクトチームサブマネージャー

2005 年　宇宙航空研究開発機構 HTV プロジェクトチームファンクションマネージャー

＜個別取材などのお問合せ先＞

ささき　ひろし
佐々木　宏

HTV プロジェクトチーム

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

有人宇宙環境利用ミッション本部

TEL：050-3362-5724

FAX：029-868-3950

E-mail：sasaki.hiroshi@jaxa.jp

○有賀　早苗（52歳）　北海道大学　副理事・女性研究者支援室長
北海道大学大学院農学研究院/生命科学院環境分子生物科学研究室　教授

女性研究者活躍に向けた環境整備と女性研究者採用の促進

有賀教授は北海道大学を拠点に、自らの研究教育活動の傍ら女性研究者支援に精力的に取り組んで来られました。同大学が平成18年度に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択された課題を主導、2020年までに女性研究者比率 20％を目指す「Triple Twenties 計画」を掲げ、部局の人件費負担軽減により女性研究者を無理なく着実に増員する「ポジティブアクション北大方式」などユニークな支援プランに溢れた取組は「モデル事業」として全国の大学等研究機関だけでなく米国国立科学財団等からも注目されています。

女子中高生の理系進路選択支援として北大生･院生達と共に全道を回る出前実験イベント｢理系応援キャラバン隊シリーズ｣も展開､女性研究者支援の視点を活かして男女を問わず若手研究人材の育成に努めてきています。2008 年 9 月には七大学男女共同参画･女性研究者支援部門合同シンポジウムの企画・運営にも尽力、北大・東大はじめ旧七帝大の総長が揃って男女共同参画社会の実現に向けた『共同宣言』を発表しました。

専門は分子生物学・生化学。北大女性研究者支援室のロゴは遺伝子の本体であるDNAの複製機構をもとに考案されています。

＜個別取材などのお問合せ先＞
有賀　早苗
北海道大学大学院農学研究院　TEL：011-706-3617
北海道大学女性研究者支援室　TEL：011-706-3625
E-mail：myan@res.agr.hokudai.ac.jp

経歴

生年月日　1957 年 10 月 11 日（52 歳）

略　　歴

1980 年　上智大学理工学部卒業
1982 年　上智大学大学院理工学研究科博士前期課程修了
1986 年　東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
1986 年　東京大学医科学研究所助手
1987 年　チューリッヒ大学分子生物学研究所研究員
1990 年　北海道大学薬学部助手
1991 年　北海道大学医療技術短期大学部講師
1992 年　北海道大学医療技術短期大学部助教授
1996 年　北海道大学医療技術短期大学部教授
2003 年　北海道大学大学院農学研究科教授
2006 年　北海道大学副理事
2006 年　北海道大学女性研究者支援室長